



企画展

〜弥生から古墳へ〜

# 東日本の古墳時代

平成13年  
6月15日(金)〜7月29日(日)

●開館時間 9時〜16時30分

●休館日 6月18・25日 7月2・9・16・23日

●後援 河北新報社・石巻日日新聞社・三陸河北新報社

NHK仙台放送局・ラジオ石巻

●観覧料金

一般・大学生300円(240円)  
高校 生150円(120円)  
小・中学生 80円(60円)

※上記料金で常設展も観覧できます。  
( )内は20名以上の団体料金



## 石巻文化センター

〒986-0835 宮城県石巻市南浜町一丁目7-30  
TEL.0225-94-2811(代) FAX.0225-94-2813  
ホームページ <http://www.iss-net.ne.jp/ishibun>

### 「前方後円墳見学会

〜遠見塚古墳・雷神山古墳を訪ねて〜

期 日：7月15日(日)

主 催：石巻文化センター

募集人員：20名

参加料：1500円

往復ハガキ(1枚につき1人)に住所・氏名・年齢・電話番号・前方後円墳見学会希望と明記の上、石巻文化センター宛お送りください。7月9日(月)必着と致します。なお、応募者多数の場合は抽選となります。詳しくは石巻文化センターへお問い合わせください。





▲袈裟襟文銅鐸  
明治大学考古学博物館 蔵



▲三角縁神獸鏡 (伝)物集女(京都府)  
明治大学考古学博物館 蔵



▲朝顔形埴輪 舟塚古墳  
茨城県立歴史館 蔵

### 《開催趣旨》

弥生時代から古墳時代への移り変わりはどのようにしてなされたのか。それを解く鍵は、この時代の象徴ともいべき古墳や集落遺跡から出土する土器に求めることができます。

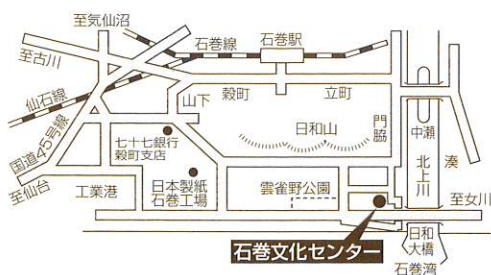
卑弥呼が邪馬台国の女王として君臨したといわれる弥生時代は、大陸から金属器が伝えられ、西日本を中心に鉄器や青銅器による文化が発展しました。新しい文化は東日本へも伝播しましたが、北部の地域では縄文時代と変わらぬ生活を続けており独自の文化を遂げていくこととなります。土器においては、生活容器や祭器としての土師器がつかられるようになり弥生土器は消滅し、西日本を中心に首長の墓といわれる古墳が築かれ始めます。このように、日本列島の東と西の文化に顕著な違いがみられ始めるのが弥生時代から古墳時代にかけてであり、この大きな変化は、支配者の出現とその権力の拡大を表しており、ここにヤマト政権の誕生をみることができるのです。

今回の企画展では、東日本の北と南の交流を考える上で、その拠点的地域の一つではないかと考えられる石巻市の新金沼遺跡を中心に、周辺遺跡及び各地の古墳、集落遺跡等からの出土資料をもとに、ヤマト政権下に組み込まれていく様相を弥生から古墳への移り変わりを通じてみていきます。

### ● 交通案内

- (1)市内循環バス利用の場合(石巻駅前バス停より)山下回り、門脇回りとも石巻文化センター前下車
- (2)タクシー利用の場合 石巻駅から約10分

### ● 位置図



▲金銅製馬飾付冠 三昧塚古墳  
茨城県立歴史館 蔵  
(※企画展では玉造町教育委員会所蔵  
金銅製馬飾付冠(複製品)を展示)



▲弥生土器(高坏)  
中在家南遺跡  
仙台市教育委員会 蔵



▲続縄文土器  
新金沼遺跡  
石巻市教育委員会 蔵